

**製品名: Rho G ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab17123**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	23kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RHOG
別名	RHOG; ARHG; Rho-related GTP-binding protein RhoG
遺伝子 ID	391.0
SwissProt ID	P84095
免疫原	抗血清はヒト RHOG 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 97-146

**背景**

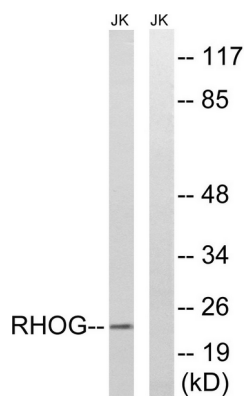
この遺伝子は、不活性な GDP 結合状態と活性な GTP 結合状態の間を循環し、シグナル伝達カスケードにおける分子スイッチとして機能する、低分子 GTPase の Rho ファミリーのメンバーをコードしています。Rho タンパク質はアクチン細胞骨格の再編成を促進し、

細胞の形状、接着、および運動性を調節します。コードされているタンパク質は、機能的なグアニンヌクレオチド交換因子 (GEF) 複合体の細胞質から細胞膜への移行を促進し、そこで ras 関連 C3 ボツリヌス毒素基質 1 が活性化されて、ラメリポディウムの形成と細胞遊走が促進されます。2つの関連する擬似遺伝子が 20 番染色体と X 染色体上に同定されています。[RefSeq 提供、2011年8月]、機能: マクロピノサイトーシス中の膜波状構造の形成に必要。白血球の経内皮遊走中のカップ状構造の形成に必要。サルモネラ・エンテリカ感染症の場合、SopB と SGEF によって活性化され、細胞骨格の再編成を誘導し、細菌の侵入を促進する。類似性: 低分子 GTPase スーパーファミリーに属する。Rho ファミリー。サブユニット: SGEF と相互作用する。、

## 研究分野

シグナル伝達; シグナル伝達経路; G タンパク質シグナル伝達; 低分子 G タンパク質; Ras ファミリー

## 画像データ



RHO G 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。